



わが村・宮内

私が生まれ育った長生町宮内は、全国一社八杵神社を中心にして30余軒が集まった小さな村である。背後を山に守られていたため、北風が遮られ冬は暖かい。南側は広大な田園が広がり、

空気の美しいのどかな地域である。今回はこの宮内を自慢させてい

ただ。自然豊かで

穏やかな風景は、私が子どもの頃とさほど変わっていない。毎日犬と散歩しながら、穏やかな幸せを感じる。これは自然環境だけでなく、宮内の社会環境からくるものだと思います。小さな集落故の恩恵は大いにある。行き交う人はたいてい顔見知りの親しさがあり、常に和やかに時節のあいさつが交わされる。

また、宮内の人々がこよな



長生町 和田 紀子さん

く尊ぶ八杵神社の伝統は、村を挙げて受け継がれている。八杵寺で五年前から続けている写経会は、本来の目的である写経以外に参加者同士の憩いの場となっていて、会話も温かく、これも何物にも代え難いひとときである。女性たちも活動的で、空き缶、古紙のリサイクルや、神社、墓地の清掃などの共同作業も伝統的に続いている。これも自慢できることである。

しかしながら、この宮内もご多分に漏れず、村の高齢化および過疎化は否めない。10年後、20年後はどんなふうになつていくのか。時代の波で多少の風景の変化はあろうとも、人々の温かさは不変のものであつてもらいたい。そんなことをつくづく思うこの頃である。

宮内の田園風景が活気づく田植えシーズンは、すぐそこである。

次は、上中町の里広理恵さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

井上 正恵

ハウスみかん金の色して積まれをり流した汗の甘みとなりて

森 ゆき子

ほこほこと尾根の落ち葉を踏みしめて登るかも道古偲ぶ

枝川 照子

ひと仕事終えればソファーに寝かされて八十

真田美代志

今日も又生きて居たよとひとり言コーヒーた

湯浅佐智子

限りあるいのちを日々に絞り鳴く一途な蟬の性の愛しき

程野 茂

今飲みし冷水滲み出る様に汗流れ落つ畑の草

川口 節子

住み慣れし村に残れる潜水橋流れる水は日々を新たに

俳句

阿南市俳句連合会選

瀬藤 豊子

と見こう見して梅林をすすみけり

デイケアの声だけ元氣鬼は外

植田真一郎

大霜に伊勢参道の泥るみて

神野 利津

妻は試歩息を合わせて青き踏む

田村 清朔

春の雪日本列島嘗め狂う

坂東美恵子

梅の谷人を静かに歩ませて

数藤 耕風

宵えびす床にずらりと福の神

手塚 真帆

濁声のコーチのノック余寒なお

大西 裕子

竹生島めざす湖上や春帽子

中富 範子

野焼する人に尋ねる登山口

横井 知昭

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

なんだつけ階段上がつてもう一度

佐藤つたえ

健康のバロメーターのスニーカー

臣守 愛香

利き過ぎた塩が世間を狭くする

滝川 太郎

何事と割り込んでみる好奇心

湯浅 三子

齢よりも若いはずだと言ひ聞かず

田上 鶴子